



好事例 file. 3

ゆうげんがいしゃ ちくどうえん

有限会社 竹堂園

- 所在地：愛知県瀬戸市品野町1丁目101
- 業種：陶磁器製造業
- 設立：1924年
- 電話番号：0561-42-0322 ■従業員数：12名
- HP：http://www.tohki.co.jp/



労働環境の改善に尽力

愛知県瀬戸市で製陶業を営む「有限会社 竹堂園」は、20年ほど前からインターネットを活用し、問屋を介さない直接販売に取り組んできた企業です。同社では求人について「人が来なくて困ったことはない」と話します。

❁ OEMと自社製品に活路を見出す

竹堂園は、20年ほど前から楽天サイトを活用した小売事業を立ち上げており、10年ほどかけて小売事業を軌道に乗せることに成功しています。また一方で、OEM生産に向けて、地元の窯元と石膏型を共有し、メールやWebシステムを活用して生産体制を効率化するなどの企業努力を行っています。

❁ 楽天を使った小売事業の展開

代表取締役を務める島倉淳さんは、自社を「そんなに良くはないですよ」と謙遜しつつも、現在の課題として「製造小売部門の強化」と「商品開発・新規市場の開拓」を挙げます。楽天サイトによる販売は、10年かけて事業としての軌道に乗せられたものの、成長に鈍化傾向があるそう。島倉社長は「今、踊り場に入りましたね」と、停滞感をにじませます。「子ども用食器で伸びましたから、新しい販路を探しながら営業をかけ、市場を開拓しています。また、新しい商品の開発も必要です」。



インターネット通販では、子どもの出産祝い等に自社オリジナルの名入れ食器が人気。

❁ 求人で困ったことはない

今でこそ、直接販売などで一定の業績が見込めるようになった竹堂園ですが、低迷していた時期もあったそうです。「7~8年ぐらいですかね。産地問屋さんとの取引から段々とフェードアウトして、楽天や新しい市場を開拓している当初は、低迷期があって、その頃は若手の採用ができませんでした」。島倉社長はさらに続けます。「ここ6年ぐらいは順調に採用ができていますよ。瀬戸にある窯業の職業訓練校に募集をかけていて、ちゃんと応募が来ていますね。この仕事を30年やっていますが、人手が足りなくて困ったという経験はないですね」と。その理由は何なのでしょう。

❁ すぐに取り組んだ労働環境の改善

島倉社長自身は、かつて修行のような形で消費地問屋に勤務し、31歳で家業に戻ってすぐ3代目を継ぐことになったそうです。それからすぐ取り組んだのは、労働環境の改善でした。「**うちは瀬戸でも1番というほど汚かったんです。だからずっと掃除をしていましたね**」と、当時を思い出してか、顔をしかめる島倉社長。



掃除が行き届いた清潔感あふれる工場内。

工場を建て替えたり、空調を増設したりと少しずつ環境改善を行って、現在は接続部分を除いた全ての場所で、空調が行き届くようになっていきます。「今では労働環境は他より良いかもしれませんね。**やっぱり労働環境は綺麗であるべき**だと思います。もしかしたら、それで人が来てくれるのかもしれませんね」。労働環境の改善は、その一例なのでしょう。島倉社長が掲げるモットーは、「顧客第一主義。二にスタッフ、三に地域貢献」。顧客については当然としても、2番目にはスタッフのことを挙げる。「社長として人のマネジメントをもっと上手くやらないと、とも思っているのですが、そういうのが苦手ですから、スタッフたちに任せています」と、再び社長は謙遜して笑顔を見せます。



絵付けを担当する小倉さん（写真手前）と冨本さん（写真奥）。

interview

若者インタビュー



絵付け 冨本佳子さん

友達と見学して、環境が明らかに違った

窯業訓練校を卒業して就職した冨本さんは現在2年目。大学卒業

後に事務職として7年勤めてから、陶芸に興味を持って就学し、2度目の就職先として竹堂園を選びました。就職先を探す際には、学校の同級生4人でいろいろな窯元を見学したそうです。「いくつか見て回る中で、ここ（竹堂園）は特に綺麗な環境だったと、みんなで話していました。最近でも他に就職した同級生と会いますが、中には仮設トイレのところもあるらしく、うちは恵まれているなあと思いますね」と冨本さん。また、見学に対応してくれた社長夫人が、楽天事業や商品に対する熱意を話したそうで、それを聞いて「ホスピタリティの高い会社だな」と感

じたことも、就職希望の理由になったそうです。

1年学んだとは言え、**異業種からの転職**という形で活躍している冨本さん。「**それでも働けるということを知ってもらえたら**、この産業に若い子がもっと入ってくるように思います」と提案してくれました。



絵付け 小倉夏樹さん

もっとすごい環境だと思っていた

小倉さんは浜松の大学でデザインを学んだ後、瀬戸の窯業訓練校で学び、卒業後の進路として竹堂

園を選び、3年目になります。小倉さんはこの産業に変わった先入観があったそうで「山奥みたいところで、すごい格好の人が、昔ながらの方法で作っていると思っていました」と笑います。その上で見学に来たものだから「こんな現代的な方法で作っていたんだ」と驚きを感じたそうです。いささか極端な事例ですが、労働環境については、意外と広く知られていない現実が、やはりありそうです。

就職に先立って、職場体験を経験した小倉さんは、ここで働きたいという気持ちを強くしたそうです。また、就職後しばらくを振り

返って、こう話します。「先輩たちから教わって、そのおかげで仕事ができるようになったと感じます。仕事の内容自体は、興味のある人にとっては面白いものだと思いますので、働いているのはこういう人たちだよって、**作り手を紹介するような機会があれば**、若い人が入りやすくなるかもしれませんね」。

